

1 モジュール

B
ゾーン

モジュール

★★ check

- 建築空間や構成材の寸法を決めるための単位寸法または寸法体系。
- 歴史的には建築各部の寸法の比例関係を導き出すのに使われ、近代以降は人間の生活に適合した建築をつくるための基準尺度として用いられています。

■ 今日のコジュールの考え方

- ISO（国際標準化機構）規格で定められている、全ての寸法を一つの単位寸法（10cm）の整数倍により決定します。

例 ベーシックモジュール=10cm単位のモジュール。1M=10cm。

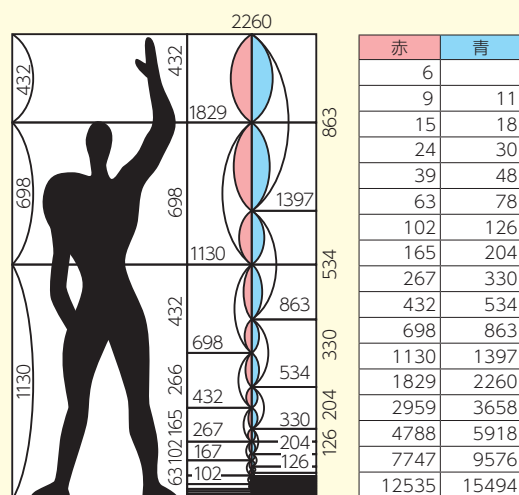
- よく用いる寸法をいくつか選び、その集合体の全体をモジュールとします。集合体は等差数列や等比数列などで構成されています。

例 フィボナッチ数列、モデュロール

モデュロール

★★★★ check

- ル・コルビュジェが考案した建築設計のためのモジュールです。
- 人体寸法を黄金比で分割した寸法体系。



モデュロール

尺貫法

★★ check

1尺 = 303.03mm → 3尺 ≒ 910mm → 1間 = 6尺 ≒ 1820mm

1間 × 1間 ≒ 1820mm × 1820mm ≒ 3.3m² ≒ 1坪 = 2畳

1畳 = 3尺 × 6尺 ≒ 910mm × 1820mm ≒ 1.65m²

notes

V

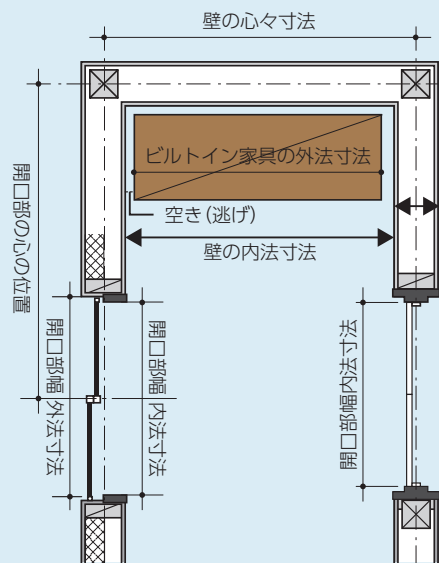
造
形

モジュラーコーディネーション (MC)

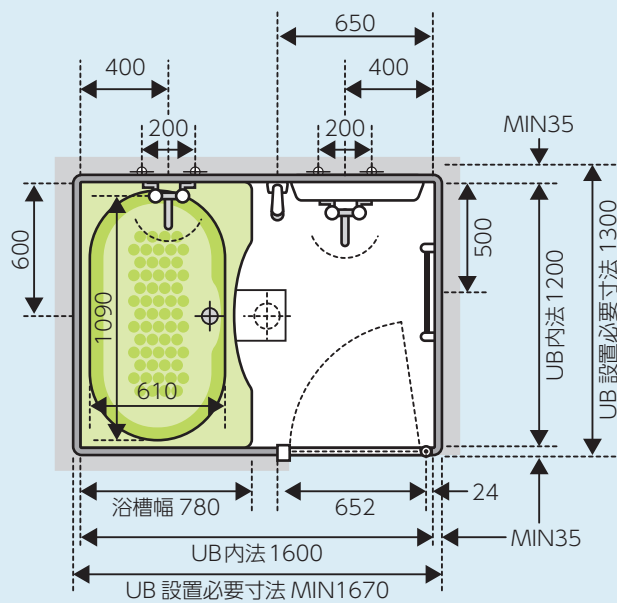
★★★ check

- モジュールに基づいて構成材、空間の大きさや位置を調整すること。
- 空間の大きさや位置を決めるために設定された、線や面が寸法調整の基準となります。

- ① 組み立て基準線
- ② 組み立て基準面



木造住宅の設計に使われる基準線
ビルトインタイプの収納家具の位置を決める際に使われる基準面



ユニットバスの位置を決める際に使われる基準面

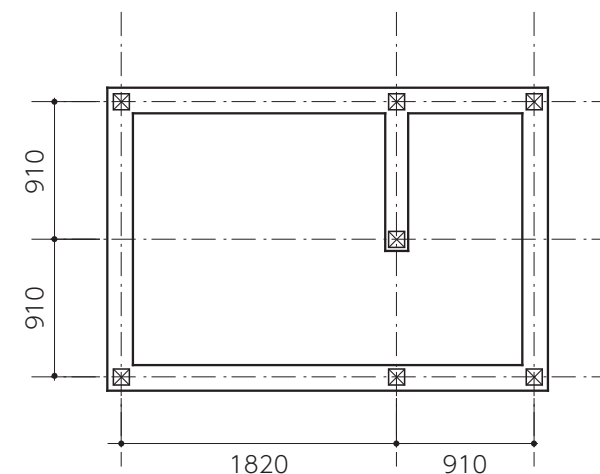
グリッドプランニング

★★★★★ check

ある基準寸法でできた格子 (=グリッド) の上に合わせて、建物の平面計画や都市計画を行うことです。

① シングルグリッド

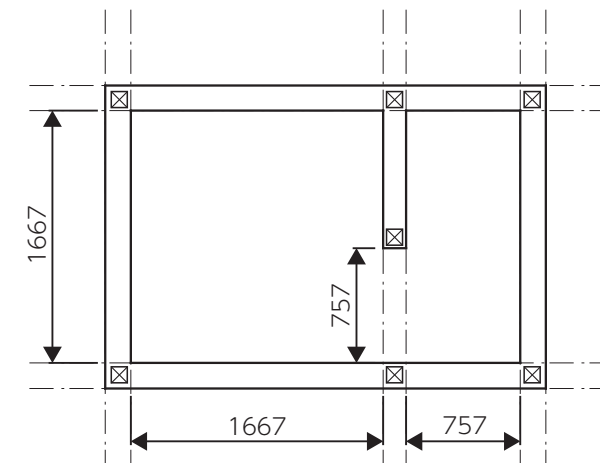
- グリッドを構成材の中心線に合わせる方法
- 柱割の江戸間 (関東間)、在来軸組構法



シングルグリッドの例

② ダブルグリッド

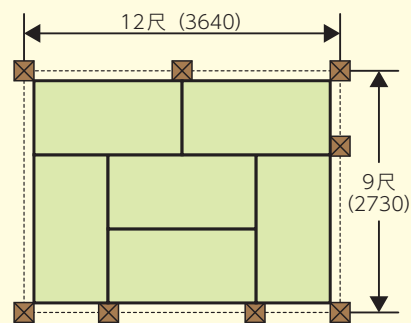
- 壁の厚さや柱の大きさをダブル線でグリッド状に引いておく方法
- 畳割の京間 (関西間)



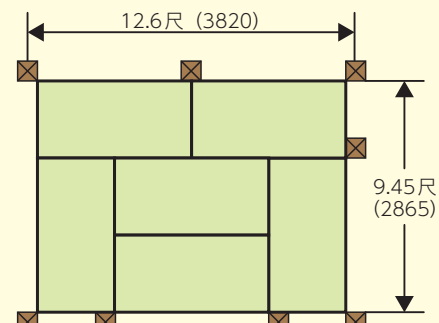
ダブルグリッドの例

□木造住宅のモジュール

畳の 大きさ	名称	技法	特長
小	江戸間 (関東)	柱割	1間=1820mm(=6尺)とし、柱の心々間にその倍数を割当て部屋の広さを決める(シングルグリッド心押さえ) →部屋の大きさや形状により畳の大きさが異なる 1760mm×880mm
中	九州 四国	柱割	1間=1910mm(=6尺3寸)とし、柱の心々間にその倍数を割当て部屋の広さを決める(シングルグリッド心押さえ) →部屋の大きさや形状により畳の大きさが異なる 1820mm×910mm
大	京間 (関西)	畳割	畳1枚の大きさを1910mm×955mm(=6尺3寸×3尺1寸5分)に統一し、柱の大きさは部屋の寸法と別にとる(ダブルグリッド面押さえ) →部屋の内法がモジュールになっているので、構成材が標準化しやすい。畳の大きさが全て同じ



江戸間の6畳



京間の6畳

2 形

A
ゾーン

インテリアを構成する空間やエレメントは、基本的には「機能・性能」が最優先となります。しかし、快適なインテリアにするためには「視覚的な美しさ」も大切です。「美しさ」は人によって異なりますので絶対的な基準はありません。また、個々が美しくても、インテリアエレメントは単独で存在しませんので、集合したときの状態で判断しなくてはなりません。

立体

★★ check ■■■■

- 面が移動、回転、集積したもの。
- 立体の形を決める面には、平面と曲面があります。

■ 正多面体

- 立体を構成する面が全て同じ形の最も安定した立体。
- 5種類(正4面体、正6面体、正8面体、正11面体、正20面体)あります。

空間の形

★★★ check ■■■■

■ ボイド

面によって囲まれた空間、空洞。部屋などのインテリアスペース。

■ ソリッド

空間の一部を占める物体、個体。家具などのインテリアエレメント。